広島大学大学院教育学研究科紀要　第三部　第60号　2011　17－26

官立長崎師範学校の蔵書

鈴　木　理　恵

（2011年10月６日受理）

Collection of Books of Nagasaki Normal School

Rie Suzuki

Abstract: Nagasaki normal school was founded in Meiji 7, and was abolished in Meiji 11. According to the library catalogue, Nagasaki normal school possessed about 50,000 volumes when it was closed, The collection of books were classified into the textbooks of the attached elementary school, the textbooks of the normal school, the reference books for students of normal school, and the foreign books for normal school. About 10,500 volumes were possessed as the textbook and teaching materials for attached elementary school. Since these books were sold or were lent out to children, there was many number of copies. As the textbook and teaching materials for normal school, 135 kinds of about 28,000 volumes were possessed. These books could also be lent out to the students. As the reference books for normal school, 900 or more kinds of about 10,000 volumes were possessed. The books of various fields were contained. About 700 volumes were possessed as the foreign books for normal school. Possibly the foreign books were used for teacher's research. Some of textbooks, reference books, and foreign books for normal school are existing in Nagasaki University attached library.

Key words: Nagasaki normal school, collection of books, library catalogue
キーワード：官立師範学校　学校蔵書　蔵書目録

はじめに

明治５年（1872）に東京に，同６～７年に宮城・新潟・愛知・大阪・広島・長崎に官立師範学校が，同７年に東京女子師範学校が設置されて，教員養成が開始された。しかし，東京以外は，同10年から11年にかけて財政難のために相次いで閉鎖された。地方の官立師範学校が短命であったことや史料不足もあって，研究は東京師範学校を中心にしておこなわれてきた[1)]。官立師範学校の機能には，おもに教員養成と教育研究の二側面があるが，教育研究機能に関しては，東京師範学校が全国のセンターとして評価され，地方の官立師範学校を通じて東京師範学校の小学教則や教授法が各地に定着したことが通説となっていた。これに対して，橋本美保は，地方の官立師範学校蔵書中の西洋教育書に注目し，各校がそれらを利用して独自に教育研究をおこなっていたことを指摘した[2)]。

官立長崎師範学校に関する専論としては，平田宗史の「官立長崎師範学校」がある。平田は，文部省年報や文部省報告，あるいは長崎県文書，長崎師範出身者の伝記などを利用して，同校の沿革や卒業生数について明らかにした。そのうえで，官立長崎師範学校の意義を，教育界での指導的立場（小学督業・県視学・校長）となる卒業生を輩出することにより明治期九州地方の教育普及に貢献したことと，九州地方の小学校教員養成機関のモデルとなったことの２点にまとめている。

官立長崎師範学校の実態を知るための史料は乏しいが，現在確認されているところ，官立師範学校のなかで蔵書目録が残されているのは長崎だけである。旧蔵書も一部ではあるが，まとまって残る[3)]。そこで本研究は，平田が明らかにした基礎的事実に負いながら，

橋本の方法や視点を参考にして官立長崎師範学校の蔵書分析をおこない，初期の教員養成校に期待された機能・役割について明らかにすることを目的とする。厖大かつ多岐にわたる蔵書を分析するには，さまざまな角度から継続的に研究を進める必要があるが，官立長崎師範学校蔵書についての現時点での見通しを述べれば，幅広い分野の貴重書を蒐集していた点，旧藩蔵書の優先下付，文部省からの下付，外務省を通じての洋書購入など蒐集面での優遇措置を受けていた点，東京師範学校よりも早い段階で購入された洋書がある点，東京書籍館や教育博物館などにも所蔵されていない洋書を架蔵していた点などの特徴を析出できるとみている。これらの特徴を具体的かつ詳細に明らかにできれば，官立長崎師範学校が，教育・研究において，第五大学区のセンターとしての機能・役割を期待されていたと断定できるだろう。本稿をその研究の第一段階と位置づけ，官立長崎師範学校蔵書の概要を押さえることから始めたい。

本稿で使用する史料は，旧官立長崎師範学校蔵書の一部と，同校蔵書目録，同校関連諸規則・教則である。蔵書は，官立長崎師範学校閉鎖の際に公立の長崎県師範学校へと引き継がれ，現在は長崎大学附属図書館によってその一部が保存管理されている。蔵書目録は，旧官立長崎師範学校閉鎖の際に作成されたもので，現在は長崎歴史文化博物館に保管されている。規則・教則類[4]は，「長崎師範学校規則」（明治８・９年）「明治九年六月改定長崎師範学校同則」「長崎師範学校書籍局規則」「長崎師範学校附属小学校規則」「上等小学教則」「下等小学教則」の７種類で，筑波大学附属図書館に所蔵されている[5]。

1　官立長崎師範学校の沿革

明治５年（1872）の学制は，師範学校について，「小学ニ教ル所ノ教則及其教授ノ方法ヲ教授ス，当今ニ在リテ極メテ要急ナルモノトス，此校成就スルニ非サレハ小学ト雖モ完備ナルコト能ハス，故ニ急ニ此校ヲ開キ其成就ノ上小学教師タル人ヲ四方ニ派出センコトヲ期ス」（第39章）とし，小学教員については「男女ヲ論セス年齢二十歳以上ニシテ師範学校卒業免状或ハ中学免状ヲ得シモノニ非サレハ其任ニ当ルコトヲ許サス」（第40章）とした。いっぽうで，全国に５万3760の小学校を設置することを打ち出し，国民皆学を掲げた。

同年５月に官立師範学校が東京に創設され，近代教科を担当しうる職業人としての教員の養成が開始された。以後，全国の大学区に一校ずつ創設された。1874年（明治７）に第五大学区の師範学校として設立された官立長崎師範学校は，明治11年２月の廃校までに154名[6]の卒業生を輩出した。彼らの９割以上は九州出身者で，卒業後は小学校教員になったという[7]。

官立長崎師範学校の創設が決定したのは，明治７年２月のことであった。同月19日，文部省は渡部温（文部省七等出仕長崎英語学校長）に官立長崎師範学校長兼務を命じた。平田宗史の研究や『長崎県教育史』[8]を参考に同校設立の経緯をたどると以下のようになる。

４月，仮校務取扱所を長崎外国語学校内に開設。
５月，教則を制定し，第五大学区の各県に向けて生徒100名を募集した。
７月，応募者70名の試験を実施して37名の入学を許可し，長崎外国語学校内の仮教場で授業を開始。
明治８年１月に寄宿舎が落成し，２月に長崎邨岩原郷に新校舎が完成。
翌９年２月，附属小学校が竣成した。

官立師範学校と併行して公立学校においても教員養成がおこなわれていた。長崎県では，明治６年に教員仮師範所が設置され，同７年に小学教則講習所，同８年に養成所，同９年に小学教員養成所，さらに長崎公立師範学校，同10年に崎陽師範学校と改称した。

2　蔵書の概要

（1）学校教育と書籍館

官立師範学校が創設された明治初期は，福沢諭吉や目賀田種次郎らによって欧米文庫や書籍館が紹介され，官立書籍館，東京書籍館や府県立書籍館の設立が進められていた時期にあたる[9]。特に，田中不二麿は，「公立書籍館ノ設置ヲ要ス」[10]と題して，「公立学校ノ設置ト公立書籍館ノ設置トハ，固ヨリ主伴ノ関係ヲ有シ，互ニ相離ルヘキニ非ス，今ヤ公立学校ノ設置稍多キヲ加フルノ秋ニ際シ，独リ公立書籍館ノ設置甚タ少ナキハ教育上ノ欠憾ト謂ハサルヲ得ス」と述べ，学校教育にとって書籍館の役割が重要だと主張している。官立師範学校が創設されるにあたり，そこに架蔵される書籍の蒐集に意が用いられたであろうことをうかがわせる。

文部省年報によって，明治７年から同11年までの官立師範学校の蔵書数をまとめると，表１のようになる。長崎は創設時の明治７年に和漢洋書2,228部8,163冊を所蔵していたことがわかる。部数だけをみれば，長崎は，明治７年に愛知の3,262部，広島の3,026部に次いで多く，翌８年に10,737部に激増して最多になっている。明治９，10年の蔵書数は不明ながら，同11年の閉鎖時には48,983冊に達していた。その内訳は，「教科書」

表１　学校別にみた書籍器械数の推移

師範学校	明治７(1874)	明治８(1875)	明治９(1876)	明治10(1877)	明治11 (1878)
東京	（記載なし）	（記載なし）	**3890部**	**7670部** 和漢書5346部 洋書2324部	**和漢書9174部** **洋書3033冊**
			図類205軸	図類316軸	
			器械79個	器械262個	器械・見本模本薬品類1124個913品
愛知	**3262部** 小学教科書類1709部 翻訳書類1120部 国書類262部 洋籍類121部 漢籍類50部	**5695部** 教科書3824部 翻訳書1434部 国書237部 漢書35部 洋書165部	**5404部**	**5440部** 和漢訳書5254部 洋書186部	（廃止）
	図画類104部	図画179部	図類472	図類392枚	
	器械類14個	器械119個	器械431 物理器械１組	器械324個	
大阪	**472部**	**819部**	**709部**	**4733冊** 和漢書4365冊 洋書368冊	**21222冊** 和漢訳書20673冊 洋書549冊
	図36組34軸７枚				
	器械13組64個79筥	器械70個	器械110個	器械61個	器械172個
広島	**3026部** 地理書360部 理学化学書674部 数学書125部 画学書124部 史書628部 雑書983部 英書123部 仏書９部	**184種3204部**	**8205部**	**10300部**	（廃止）
	地図類41			図画119部	
	器械673個	器械15種287個	器械448個	器械503個	
長崎	**和漢洋書2228部** **（8163冊）**	**10737部**	（記載なし）	（記載なし）	**48983冊** 教科書27881冊 小学校用書10499冊 参考書9907冊 洋書696冊
	地図書６部 地図11軸				
	天地球儀15基	器械91個			教場用器械670個
新潟	**1837部** 和漢書1791部 洋書46部	**2420部**	**3327部**	**3936部** 和漢書3711部 洋書225部	（廃止）
				図類437部	
	器械63個	器械24個	器械137種	物理器械206種	
宮城	**932部** 本科書131部149冊 漢書57部 国史176部 翻訳書320部 地理書40部20冊 字書14部 算術書29部２冊 画学書８部８枚 年表３部 雑書74部57枚 西洋書80部	**2140部**	**2650部**	**22759冊** 和漢書22350冊 洋書409冊	**2977部15314冊** 和漢書2366部14556冊 洋書349部470冊 雑書262部288冊
	地図31帖13軸 図33枚11組		図類40枚	図画595枚	図画250組358枚
	器械62個	器械58個	器械54具		
東京女子	（記載なし）	**795部**	**21825冊**	**28212冊** 和漢書27689冊 洋書523冊	**63079冊** 和漢書31028冊 洋書類32051冊
		器械55個 器具1463個	器具1571個	器械27組975個	器械薬品・幼稚園玩具6組1392個165品

註：この表は文部省第二～第六年報より作成した。
　　ゴチックの部数冊数は合計数を，明朝体は内訳を示す。

27,881冊，「小学校用書」10,499冊，「参考書」9,907冊，「洋書」696冊である。これは，同年の蔵書冊数が明らかな４校のなかで，東京女子63,079冊に次いで多い蔵書数である。これらのことから，官立長崎師範学校の蔵書数が，創設時から閉鎖時まで一貫して全国の官立師範学校のなかで多いほうだったことがうかがえる。しかし，文部省年報の掲載様式は，蔵書数の表記に種類・冊数・部数が混在し，附属小学校の蔵書数を含める師範学校と含めないところがあるなど統一されていないため，蔵書数を単純に比較することはできない。また，長崎の蔵書数は５万冊近くに達していたとはいえ，本稿で明らかにするように，書物のなかには一種類につき数十部，あるいは数百部を所蔵していたものも含まれており，書物の種類はさほど多くない。蔵書数だけでなく，所蔵の内実や蔵書の内容を明らかにしていく必要がここにある。

（２）蔵書目録の概要

官立長崎師範学校時代の設備・備品・蔵書の目録が長崎歴史文化博物館に保管されている。12冊の諸目録を綴じ合わせて合冊にしたもので，表紙には「旧長崎師範学校地所建物目録」とある。各冊にも表紙があり，それぞれの表題と丁数は，以下のとおりである。

①長崎師範学校地所建物目録……３丁
②旧長崎師範学校附属小学校建家坪数及建具畳員数目録・旧長崎師範学校諸器具目録……７丁
③理化学器械一組之目録……９丁
④旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録……５丁
⑤旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録……４丁
⑥旧長崎師範学校地所建物目録……３丁
⑦旧長崎師範学校洋書目録……14丁
⑧旧長崎師範学校蔵書器目録……９丁
⑨旧長崎師範学校附属小学校建家坪数及建具畳員数目録・旧長崎師範学校諸器具目録……10丁
⑩教場用器械類目録……２丁
⑪旧長崎師範学校蔵書器目録……９丁
⑫旧長崎師範学校蔵書目録……59丁

いずれも，「長崎師範学校」名入りの罫紙（１丁26行）に筆墨で書かれている。「長崎師範学校地所建物目録」（①⑥），「旧長崎師範学校附属小学校建家坪数及建具畳員数目録・旧長崎師範学校諸器具目録」（②⑨），「旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録」（④⑤），「旧長崎師範学校蔵書器目録」（⑧⑪）はそれぞれ二部あり，記載内容に若干の違いがあることから，これらが一時期に作成されたとは考えられない。「旧長崎師範学校洋書目録」以外の11冊の目録には，備品個数や書籍冊数の上部に検印が押されていることから，これらがチェックリストとして利用されたことがうかがえる。

本目録と同時に作成されたと考えられる「旧長崎英語学校蔵書器械雑品」（長崎歴史文化博物館蔵）のなかに，明治11年４月13日付で「旧長崎師範学校長佐原純一」から「長崎県権令内海忠勝代理長崎県大書記官高橋新吉」にあてて「旧長崎師範学校並ニ附属小学校建物書籍器械類共別紙目録八冊図面弐枚之通引渡申候也」と書かれた文面が収められている。この「目録八冊」が上記①～⑫のうちの，③⑦⑩⑫各１冊と，①か⑥，②か⑨，④か⑤，⑧か⑪のそれぞれのいずれか１冊の計８冊を指し，「図面弐枚」が「旧長崎師範学校之図」「長崎師範学校附属小学校絵図面」（いずれも長崎歴史文化博物館蔵）を指すと考えられる。すなわち，①～⑫の目録は，官立長崎師範学校の蔵書や備品が長崎県に移管される際に作られたもので，目録中に押された検印は長崎県役人のものであった[11]。

①～⑫の目録のなかで，蔵書目録は「旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録」（④⑤），「旧長崎師範学校洋書目録」（⑦），「旧長崎師範学校蔵書器目録」（⑧⑪），「旧長崎師範学校蔵書器目録」（⑫）である。

「旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録」は，官立長崎師範学校附属小学校の蔵書器の目録である。同校は，明治８年に開校し，同11年３月に崎陽師範学校第二附属小学校となった。同目録には④と⑤の二種類があって，用字などに若干の違いがあるものの，書名や冊数などの基本的な内容に変わりはない。同目録は，読本・地理・歴史・数学・習字・画学・雑書器の７門に分かれている。第一門読本類は以下のとおりである。（印）の部分には，実際には「廣田」（④）あるいは「荒木」（⑤）という朱印が押されている（〈　〉内は割注であることを，／は改行を示す）。

一〈師範学／校編輯〉小学読本（印）全四冊（印）三拾五部
一同〈自第二巻／至第四巻〉　（印）三冊モノ（印）七拾四部
一同〈自第三巻／至第四巻〉　（印）二冊モノ（印）五部
一同　（印）第四巻（印）弐拾壱部
一小学読本　（印））全四冊　（印）四拾部
一小学読本〈田中芳男閲／田中義廉編〉
（印）第五巻（印）七部
一同　（印）第六巻（印）壱部
一〈小／学〉読本　（印）全六冊（印）三拾壱部
一同〈自第一巻／至第五巻〉　（印）五冊モノ（印）拾六部
一同　（印）第壱巻（印）六拾六部
一小学入門　甲号　（印）全一冊（印）三拾部
一同　乙号　（印）全一冊（印）百八拾壱部
一小学教授書　（印）全一冊（印）四拾弐部

第一門読本類は，目録では13行にわたり記録されているが，書名に注目すればほとんどが「小学読本」である。しかし，少なくとも，師範学校編輯『小学読本』

（全４冊），『小学読本』（全４冊），田中芳男閲・田中義廉編『小学読本』，『〈小／学〉読本』（全６冊）の４種類があったことがわかる。師範学校編輯『小学読本』に関しては，４行にわたり記録されているが，完本が35部，第１巻欠本のセットが74部，第１・２巻欠本のセットが５部，第４巻だけが21冊所蔵されていた。要するに，師範学校編輯『小学読本』は，第１巻が35冊，第２巻が109冊，第３巻が114冊，第４巻が135冊，合計393冊が所蔵されていたということになる。同様に，『〈小／学〉読本』は，完本が31部，第６巻欠本のセットが16部，第１巻のみが66冊であった。つまり同書は，第１巻が113冊，第２～５巻が47冊ずつ，第６巻が31冊所蔵されていた。目録の作成方法は，各書物について，完本の部数を優先的にカウントし，余りで，欠本を除いてできる限りセットを作ってその数をカウントして記述したとみられる。巻によって所蔵冊数に偏りがある理由は不明である。官立長崎師範学校附属小学校の旧蔵書は残されていないので，現物と対応させることができない。

同目録中の書名と各書物の冊数と部数を，目録の様式に即して表２にまとめた。表２中の「部数」は，完本とは限らず，先述した「小学読本」のように欠本がある場合には，それを除いてセットを作り１部としてカウントしている。「冊数」は，目録には掲載されていないが，各書物の１セット毎の冊数にその部数を掛け合わせて出した数字である。各部門の小計の欄に，書物の実際の種類を入れた。これも目録にはない数字である[12]。

読本部門に含まれる書物は，合計1,197冊に達するが，その種類は６種類にすぎず，先述したように「小学読本」関連書が主である。地理部門も1,701冊と多いが，８種類に過ぎず，しかも「日本地誌略」関連書が主である。『日本地誌略』（全４冊本）の完本49部（巻別にみれば第１巻104冊，第２巻201冊，第３巻304冊，第４巻49冊）が所蔵されていた。『地理初歩』は完本368部にも及ぶ。『万国地誌略』は完本88部（巻別にみれば第１巻231冊，第２巻88冊，第３巻92冊）が所蔵されていた。歴史部門は５種類1,396冊で，完本は『日本略史』47部，『官版史略』（全３冊本）193部，同（全２冊本）３部，『官版改正再刻史略』49部，『万国史略』166部である。数学部門は『小学算術書』（全４冊本）と師範学校編輯『小学算術書』（全５冊本）の２種類である。習字部門は４種類1,645冊に及ぶ。『習字手本』『習字初歩』は完本がそれぞれ300部，302部も所蔵されていた。画学部門は『画学書』『図法階梯』の２種類1,581冊で構成されていた。雑書器は図面や器械など50種類2,597点に及ぶ。

「長崎師範学校附属小学校規則」の小学課程表によれば，下等小学の課程は，読学・書取・問答・口授・算術・習字から成っていたが，読学のなかに，『小学読本』『地理初歩』『日本地誌略』『万国地誌略』『万国史略』などの書名が見える[13]。さらに，同規則中の書器規則に次の３か条が定められていた[14]。

第一条　課業書器払下ヲ願フ者ヘハ原価ヲ以テ払渡スヘシ

第二条　課業書器代価一時上納難致者ヘハ願ニ依テ月割上納ヲ許スヘシ

第三条　貧窮ニシテ課業書器ヲ買フ亅能ハサル者ヘハ詮議ノ上貸渡ス亅アルヘシ

書器規則から，児童が書器を購入できたこと，経済的理由から購入困難な者へは貸与される場合があったことがわかる。一種類の書物につき数十部から300部の完本を所蔵していた場合があったのは，児童に払い下げること，あるいは貸し出すことが前提となっていたためであろう。附属小学校の定員は400名であった。書物は，本来はもう少し多く所蔵されていて，幾ばくかが附属小学校児童に払い下げられた結果，表２の部数になったのかもしれない。先述したように巻によって所蔵冊数に偏りがあったのは，払い下げられたためかもしれない。

「旧長崎師範学校洋書目録」には，歴史・伝記・化学及技術書・理学書・生理書・動植物書・経済書修身書・算術書・地理書・教育書・辞書・雑書・図画の部門に分けられた，総計315種類699点の洋書・図画が記録されている。歴史の部は以下のような掲載様式になっている。

一チトレルス，ユニベルサル，ヒストリイ　　弐冊物　壱部
一フレデツトス，エンシント，ヒストリイ　　壱冊物　壱部
一フレデツトス，モデルン，ヒストリイ　　壱冊物　壱部
一ゼ，スタデンツ，ヒウム　　壱冊物　壱部
一ゼスタデンツ，ヒストリイ，オフ，フランス　壱冊物　壱部

書名と，その一セットの冊数と所蔵部数を記している。原著書名を記さずに，カタカナ表記にした理由は不明である。表記様式は一定せず，「チトレルス，ユニベルサル，ヒストリイ」（Tytler.F.A., *Universal history*, 1875）や「フレデツトス，エンシント，ヒストリイ」（Fredet Peter D.D., *Ancient history*, 1871）のように冒頭に著者名が記されている場合もあれば，「ゼ，スタデンツ，ヒウム」のように記されていない場合もある。書名は省略されている場合が少なくない。現存する63冊については目録を現物と対照できるが，それ以外については原書名復元は容易ではない[15]。

ほとんどの洋書は，一種類ごとの所蔵部数が１部で

ある。また，「長崎師範学校書籍局規則」には洋書の利用に関する規定がない。したがって，洋書は，師範学校生徒への貸与はなされていなかったと考えられる。

「旧長崎師範学校蔵書器目録」は，官立長崎師範学校に所蔵されていた和書の目録である。歴史・経済書・文学書・理科書類・地理書・生理書類・修身書・教育書・博物書類・数学書類・雑書器の11部門に分類され，さらに歴史が国史・漢史・泰西史に，文学書が漢文・国文に，理科書類が化学・物理学に，生理書類が生理書・衛生書に，数学書類が数学書・記簿法に分かれていた。第一門歴史の国史之部の冒頭は以下のとおりである。書名と，その１セットの冊数と所蔵部数が書かれている。『国史擥要』の８冊本と16冊本のように，書名が同じでも構成冊数が異なれば，別の種類としてカウントした。

一国史略	（印）全五冊	（印）六拾九部
一続国史略	（印）全五冊	（印）六拾九部
一続国史略後編	（印）全五冊	（印）六拾九部
一国史擥要	（印）全八冊	（印）四拾弐部
一同	（印）全十六冊	（印）弐拾六部

本目録に記録された書名と各書物の冊数および部数を，目録の様式に即して表３にまとめた（雑書類は省略した）。表中の「各書冊数」とは，各書物が何冊から構成されているかを示したもので，「部数」はセットとしての各書物の数である。「冊数」は，目録には掲載されていないが，各書物の冊数に部数を掛け合わせて出した数字である。

表２でみた附属小学校蔵書には欠本が多く，「部数」といっても完本の数とは限らなかったが，表３の師範学校蔵書の場合には完本が多い。先述した『国史擥要』と同様に，『希臘史畧』『日耳曼史略』『物理日記』『化学日記』など同じ書名をもつものが少なくない。テクストとしては同じだったかもしれないが，目録上で行を分けられているものは別の種類としてカウントした。

135種の書物・備品が27,818点にのぼって所蔵されていたことがわかる。135種の32％は10部未満を，36％が10部から49部を，残りの32％は50部以上を所蔵する書物である。特に理科書には100部を越えるものが多い。一書物あたりの所蔵部数が多いことと，書物合計点数27,818が『文部省年報』に「教科書」として記録されていた冊数27,881の数字に近い[16]ことから，この目録に載せられた書物は師範学校生の教科書として利用されたものではないかと考えられる。そこで「長崎師範学校規則」（明治８年12月）および「明治九年六月改定長崎師範学校々則」をみると，数学・物理学・画学・修身学・史学・地学・文学・授業法・経済学・独見書・化学・博物学・記簿法・生理学・地理学のそれぞれについて教科用書籍が掲げられている[17]。これと対照してみると，表３中のゴチックで示したテクストが教科用書に指定されている。

「長崎師範学校規則」（明治８・９年とも）中の教場規則第八条には「課業ノ用ニ供スル書器ハ自費ヲ以テ弁スヘシト雖トモ其品類ニ依テ給貸スル亅モアルヘシ」[18]と規定されていた。明治８年に制定された「長崎師範学校書籍局規則」第一～三条によれば，修繕料を支払えば借用が可能であった。また，同規則第十四条によれば，「書籍払下願出候者アル節ハ元価ヲ以テ可払渡事」とあって，払い下げることも可能であった。つまり，教科書使用が予定された書籍は，貸与や払い下げを想定して十分な部数が用意されたということである。

「旧長崎師範学校蔵書目録」は，第一号から第五十号，および端本に分けられている。各号に名称はつけられていないが，書物の内容によって分類されているようである。第一号の冒頭部分の記載様式は以下のとおりである。

一増訂史記評林	（印）全五拾冊	（印）壱部
一補刻漢書評林	（印）全五拾冊	（印）壱部
一後漢書	（印）全六拾冊	（印）壱部
一三国	（印）全四拾冊	（印）壱部
一国語定本	（印）全六冊	（印）壱部

「旧長崎師範学校蔵書目録」に記載された書物927種については，その75％が１部ずつで，残りは書物一種につき２部から51部の所蔵となっている。この目録に載せられた書物数の合計10,599点が『文部省年報』に「参考書」として記録されていた9,907冊に近いことから，本目録中の書物は師範学校生の参考図書として利用されたものではないかと考えられる。長崎師範学校書籍局規則の第九条に「参考ノ爲メ要用ノ書籍図画及ヒ器械等ハ書器縦覧所ニ於テ拝見ヲ許ス事」とあるので，「参考書」は書器縦覧所で閲覧するのが原則であったが，第四条に「参考ノ爲メ備置ク処ノ書籍ト雖モ二部以上有テ現時差支ナキ分ハ可貸渡事」とあり，複数部数が所蔵されていた書籍については貸借が可能であったことがわかる。また，第七条に「参考ノ爲メ備置ク所ノ書籍圖書等一部ノ分ハ監事教官ト雖モ宅下拝借ヲ許サヽル事」とあって，一部しかない「参考書」は監事教官の立場でも自宅に持ち帰ることはできず，厳重な管理がなされていたことがうかがえる。

（３）現存書の概要

長崎大学附属図書館は，長崎県下にあった師範学校旧蔵の和装本・綫装本を，およそ1,500部7,800冊所蔵

表２　「旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録」中の書名と冊数

門		書　　名	各書冊数	部数	冊数
第一門読本類	1	師範学校編小学読本	4	35	140
	2	同　第2～4巻	3	74	222
	3	同　第3～4巻	2	5	10
	4	同	第4巻	21	21
	5	小学読本	4	40	160
	6	小学読本　田中義廉編	第5巻	7	7
	7	同	第6巻	1	1
	8	小学読本	6	31	186
	9	同　第1～5巻	5	16	80
	10	同	第1巻	66	66
	11	小学入門　甲号	1	30	30
	12	同　　乙号	1	181	181
	13	小学教授書	1	42	42
		小計	**6種類**	**549**	**1146**
第二門地理書	1	地理初歩	1	368	368
	2	日本地誌畧	4	49	196
	3	同　第1～3巻	3冊モノ	55	165
	4	同	第2巻	97	97
	5	同	第3巻	103	103
	6	同　黄色表紙	第1巻	94	94
	7	同　同	第2巻	12	12
	8	奥川富士越　日本地誌略	第4巻	10	10
	9	安部富士越　日本地誌畧	第4巻	48	48
	10	日本地誌略　大槻脩二編	第1巻	50	50
	11	小学日本地理書	3	49	147
	12	万国地誌略	3	88	264
	13	同	第1巻	143	143
	14	同	第3巻	4	4
		小計	**8種類**	**1170**	**1701**
第三門歴史	1	師範学校編輯日本略史	2	47	94
	2	同	第1巻	138	138
	3	官版史略	3	193	579
	4	同	第2巻	2	2
	5	同	第3巻	49	49
	6	官版改正再刻史略	4	49	196
	7	官版　史略	2	3	6
	8	師範学校編輯万国史略	2	166	332
		小計	**5種類**	**647**	**1396**
数学書	1	小学算術書	4	47	188
	2	同　第1～3巻	3冊モノ	2	6
	3	師範学校編輯小学算術書	5	51	255
		小計	**2種類**	**100**	**449**
第五門習字	1	習字臨本	1	140	140
	2	習字手本	2	300	600
	3	書牘	4	1	4
	4	同	2冊モノ	243	486
	5	同	第1巻	99	99
	6	同	第4巻	14	14
	7	習字初歩	1	302	302
		小計	**4種類**	**1099**	**1645**
画学書	1	画学書	1	269	269
	2	図法階梯	8	194	1312
		小計	**2種類**	**463**	**1581**

門		書　　名	各書冊数	部数	点数
第七門雑書器	1	小学　綴字書	1	25	25
	2	暗射図符号解	1	15	15
	3	日本暗射地図符号解	1	16	16
	4	色図釈	1	8	8
	5	修身口授	1	16	16
	6	五十音いろは両面図		10枚	10
	7	単語両面図	10組	40枚	400
	8	同　第5～6		1枚	1
	9	連語両面図	10組	50枚	500
	10	同　第5～8		2枚	2
	11	加算九々乗算九々		11枚	11
	12	減算九々図		1幅	1
	13	大数定位表		1幅	1
	14	除算九々図	1幅モノ	8幅	8
	15	線及度面及体　両面図	1枚モノ	10枚	10
	16	色図	両面モノ	10枚	10
	17	数字算用数字　両面図	1枚モノ	9枚	9
	18	濁音羅馬数字　両面図	1枚モノ	11枚	11
	19	エルファベット掛図		3幅	3
	20	色図　片面	10組	20枚	200
	21	書写小字図	1枚モノ	5枚	5
	22	羅馬頭字	1枚モノ	5枚	5
	23	書写頭字	1枚モノ	5枚	5
	24	羅馬小字図	1枚モノ	5枚	5
	25	西字成音図	1枚モノ	2枚	2
	26	西字濁音并次清音図	1枚モノ	5枚	5
	27	布張地球儀		21本	21
	28	同鐵臺		22基	22
	29	各国高低全図	6枚入	1箱	6
	30	形体		14箱	14
	31	色牌		25箱	25
	32	幼稚園玩器		7箱	7
	33	綴字一歩		2箱	2
	34	五十音字形		1箱	1
	35	色紙		2組	2
	36	假名字牌		243枚	234
	37	数字立方体		50個	50
	38	教場用算盤　大		1面	1
	39	同　小		3面	3
	40	土製菜果	14種入	1箱	14
	41	護謨製体操器		2個	2
	42	護謨製毬		6個	6
	43	習字硝子盤		25枚	25
	44	同　小		2枚	2
	45	錦画（幼絵解之図）		250枚	250
	46	幼童見取絵図早指南		2組	2
	47	楷書習字本		60冊	60
	48	東京師範学校楷書習字本	一揃	39冊	39
	49	師範学校　習字本	一揃	9冊	9
	50	長嵜師範学校ア行習字本		107冊	107
	51	同　カ行習字本		67冊	67
	52	同　サ行習字本		167冊	167
	53	同　角罫習字本		126冊	126
	54	掛図入箱		13個	13
	55	色玩器　木片		1箱	1
	56	連語図類		34枚	34
	57	時計形		1個	1
		小　計	**50種類**	**1598**	**2597**
		合　　計	**77種類**	**5626**	**10515**

表３「旧長崎師範学校蔵書器目録」中の書名と冊数

門		部	書名	各書冊数	部数	冊数
歴史	1	国史之部	**国史畧**	5	69	345
	2		**続国史畧**	5	69	345
	3		**続国史畧後篇**	5	69	345
	4		**国史擥要**	8	42	336
	5		**国史擥要**	16	26	416
	6		**皇朝史畧**	15	1	15
	7		**皇朝史畧**	10	18	180
	8		**皇朝史畧**	8	30	240
	9		日本政記	16	1	16
	10		日本政記	8	43	344
	11		慶弘紀聞今日鈔共	5	25	125
	12		日本外史	12	15	180
	13		近世史畧	3	23	69
	14		近世史畧	6	2	12
	15		日本書紀	15	5	75
	16		逸史	13	6	78
			小計		**444**	**3121**
	1	漢史之部	**十八史畧**	7	65	455
	2		続十八史畧	5	67	325
	3		**元明史略**	4	46	184
	4		綱鑑易知録明鑑共	55	8	440
	5		清鑑易知録	8	1	8
			小計		**187**	**1412**
	1	泰西史之部	**泰西史鑑**	20	67	1340
	2		**万国新史**	18	48	864
	3		万国通史	9	60	540
	4		万国通史上篇	3	2	6
	5		万国通史下篇	3	29	87
	6		巴來萬国史	2	49	98
	7		**近世西史綱紀**	4	62	248
	8		**近世西史綱紀** 第5～10巻	6	1	6
	9		**校正万国史略**	11	68	748
	10		希臘史畧	7	50	350
	11		希臘史畧	6	10	60
	12		希臘史畧第3～6巻	4	27	108
	13		希臘史畧第3・4巻	2	3	6
	14		羅馬史略	10	50	500
	15		羅馬史略第1・2巻	2	10	20
	16		日耳曼史略第1～8巻	8	29	232
	17		日耳曼史略	10	1	10
	18		日耳曼史略第3～8巻	6	29	174
	19		**仏国史畧**	10	50	500
	20		仏国史畧第1～8巻	8	4	32
	21		**英史**	11	89	979
	22		英史第6～10巻	6	2	12
	23		**合衆国小史**	4	60	240
	24		聯邦史畧	2	26	52
			小計		**826**	**7212**
経済書	1	経済書之部	**弥爾経済論**	4	32	128
	2		**経済要旨**	2	193	386
	3		**英氏経済論**	6	75	450
	4		経済原論第3～9巻	7	6	42
			小計		**306**	**1006**
文学書	1	漢文	文章軌範	6	58	348
	2		唐宋八大家文格	5	17	85
	3	国文	**言葉の八衢**	2	41	82
			小計		**116**	**515**
理科書	1	化学之部	化学入門	16	22	352
	2		**小学化学書**	3	226	678
	3		**百科全書化学篇**	2	50	100
	4		化学日記	6	46	276
	5		化学日記初篇	1帙3冊	196	588
	6		化学日記2篇	1帙3冊	195	585
			小計		**735**	**2579**

門		部	書名	各書冊数	部数	冊数
理科書	1	物理学之部	**格物入門**	7	68	476
	2		**物理全誌**	10	63	640
	3		**物理階梯**	3	108	324
	4		登高自卑	4	22	88
	5		物理日記	7	10	70
	6		物理日記初篇2篇	6	41	246
	7		物理日記初篇	1帙3冊	167	501
	8		物理日記2篇	1帙3冊	168	504
	9		物理日記3篇	1帙1冊	40	40
	10		物理日記初篇	1帙3冊	2	6
	11		物理日記2篇	1帙3冊	3	9
			小計		**692**	**2904**
地理書	1	地理書	**輿地誌略**	10	67	670
	2		**日本地誌要略**	5	73	365
	3		**兵要日本地理小誌**	3	68	204
	4		**天然地理学**	3	49	147
			小計		**257**	**1386**
生理書類	1	生理書	**弗氏生理書**	7	50	350
	2		生理発蒙	7	26	182
	3		**初学人身究理**	2	67	134
	4	衛生	健全学	6	30	180
	5		衛生新論	2	25	50
			小計		**198**	**896**
修身書	1	修身書	**修身論**	3	243	729
	2		**勧善訓蒙**	15	69	1035
	3		勧懲雑話	1	30	30
	4		勧懲雑話	2	1	2
			小計		**343**	**1796**
教育書	1	教育書之部	**学校通論**	9	70	630
	2		**百科全書教導説**	2	71	142
	3		学室要論	1	46	46
	4		**彼日教授論**	1	43	43
	5		童女筌	2	11	22
	6		小児養育談	2	11	22
			小計		**252**	**905**
博物書類	1	博物書之部	**牙氏初学須知**	15	66	990
	2		具氏博物学	10	49	490
	3		具氏博物学	第1巻	149	149
	4		博物新論	3	21	63
	5		博物新論	5	4	20
	6		博物新論補遺	3	24	72
	7		地質学	2	65	130
	8		植物綱目表	全1葉	88	88
	9		植物自然分科表	全1葉	90	90
			小計		**556**	**2092**
数学書類	1	数学書之部	代数学	10	57	570
	2		小学数学書 第1巻附録共	2	99	198
	3		小学数学書	6	1	6
	4		小学数学書	第1巻	8	8
	5		筆算訓蒙	4	52	208
			小計		**217**	**990**
	1	記簿法之部	馬耳蘇氏記簿法	5	21	105
	2		馬耳蘇氏記簿法複式	3冊	9	27
	3		**帳合之法**	4	44	176
	4		**帳合之法**初篇	2	26	52
			小計		**100**	**360**
雑書器			**雑書之部　小計**		**117**	**641**
			合計		**5406**	**27818**

註　ゴチックで示した書物は，「長崎師範学校校則」において教科用書籍と定められていたものを示す。

している。これらのなかには，「長崎県崎陽師範学校」「長崎県師範学校文庫」「長崎県師範学校図書印」「長崎県女子師範学校」などの師範学校関連蔵書印から，戦後の長崎大学附属図書館蔵書印に至るまで40種類近くの蔵書印が押されている。なかでも最も多いのは官立時代の「第五大学区長崎師範学校図書之印」である。

官立長崎師範学校は明治11年に廃校となったために，蔵書は長崎県の師範学校に移管された。その後長崎県崎陽師範学校，長崎県師範学校などに引き継がれたが，移転をくり返すうちに官立時代の蔵書の大部分は失われた。官立長崎師範学校の蔵書印が押されているなどして同校時代の蔵書と確認できる和装本は333種，冊数にして3,213冊と，洋書63冊の，合計3,276冊である。江戸期の国書や明治初期の翻訳物が多い。

現存和装本には，「旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録」に記載された附属小学校用教科書は含まれず，「旧長崎師範学校蔵書器目録」に掲載された師範学校用教科書と「旧長崎師範学校蔵書目録」に掲載された参考用書が残されている。特に参考用書の残存数は2,905冊に及ぶ。ただし，虫損が甚だしく残存状況は良くない。

おわりに

官立長崎師範学校の蔵書数をまとめると，表４のようになる。４点の目録に記載された書物の点数（種類，部数，冊数）を計上して，それを，表１の明治11年『文部省年報』上の数字と比較し，各目録中の書物の使用目的を勘案してまとめた。それぞれの目録に記載されている書物のなかで現存するものの点数を最下にまとめた。

『文部省年報』で「教科書」とされた27,881冊は，「旧長崎師範学校蔵書器目録」に記録された書物を指す。本目録によれば，師範学校の教科用書籍として使用されたものを中心に135種類が，一種類につき数十部から200部以上に及び所蔵されていた。生徒に貸し出すこと，あるいは払い下げることが可能であった。

『文部省年報』で「小学校用書」とされた10,499冊は，「旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録」に記録された書物を指す。同目録によれば，77種類の書物にすぎないが，一種類につき数十部から300部が所蔵されていたため，冊数としては１万冊を越えたのである。附属小学校の児童が教科書として使用するための書籍であり，児童に貸し出されたり払い下げられることが想定されていたために所蔵部数が多かった。全て失われて現存しない。

『文部省年報』で「参考書」とされた9,907冊は，「旧長崎師範学校蔵書目録」に記録された書物を指す。本目録によれば927種類に及び，内容が多岐にわたっていた。師範学校の課業で直接に利用するわけではないが，生徒の参考書として利用されることが期待されていた書籍である。多くの書籍が一部のみの所蔵であったため，原則的に貸し出しはなされなかった。292種類の2,905冊が現存する。

『文部省年報』で「洋書」とされた696冊は，「旧長崎師範学校洋書目録」に記載された洋書を指す。ほとんどの洋書は所蔵部数が一部に限られ，書籍局規則にも洋書貸借に関する規則が見られないため，師範学校生徒が教科書や参考書として使用するというよりも，教官の教育研究のために備えられたものかもしれない。

今後は，蒐集経緯を明らかにすることや，蔵書目録や現存書を詳細に分析して蔵書の内実を具体的に明らかにすることを課題とする。

【註】

１）地方の官立師範学校を主として研究対象としたも

表４　官立長崎師範学校蔵書の分類と点数

文部省年報 明治 11 年	教科書 27, 881 冊	小学校用書 10, 499 冊	参考書 9, 907 冊	洋書 696 冊	合計 48, 983 冊
蔵書目録 明治 11 年	旧長崎師範学校蔵書器目録 135 種 5, 406 部 27, 818 点	旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録 77 種 5, 626 部 10, 515 点	旧長崎師範学校蔵書目録 927 種 1, 763 部 10, 599 冊	旧長崎師範学校洋書目録 315 種 406 部 699 冊	1, 454 種 13, 201 部 49, 631 点
現存数	32 種類 244 冊	0 冊	292 種類 2, 905 冊	63 冊	3, 212 冊

註：部数（特に「旧長崎師範学校附属小学校蔵書器目録」の部数）は，完本部数とは限らない。

のには，中泉哲俊「草創期の官立師範学校」（『弘前大学教育学部紀要』４，1958年，pp.1-17），武村重和「官立師範学校の成立と理学教育―日本自然科学教育成立史研究（その７）―」（『研究紀要』（新潟大学教育学部）12，1967年，pp.77-88）などがある。

2）橋本美保『明治初期におけるアメリカ教育情報受容の研究』風間書房，1998年。

3）他の官立師範学校についても蔵書は残存しているが，分散して保管されている。たとえば，旧東京師範学校の蔵書は，現在筑波大学附属図書館に所蔵されているが，東京師範学校蔵書としてまとめられているわけではないので，蔵書印が押されている書籍を探すことから始めなければならない。たとえば，*Standard Speller*（筑波大学附属図書館所蔵）には「師範学校」印（明治５・６年段階の最も古い蔵書印と考えられる）と「東京師範学校図書印」の両方が押されている。旧広島師範学校蔵書についても状況は同じである。たとえば，『化学入門』（広島大学附属図書館所蔵）には，「第四大学区広島師範学校文庫之印」が押されている。

4）規則・教則類は，「長崎師範学校規則」として，以下の７種類の小冊子を綴じ合わせた形態をとる。蔵書の利用状況をうかがわせてくれる史料である。

長崎師範学校規則（明治７年６月）……28頁
長崎師範学校規則（同８年12月）……12丁
明治九年六月改定長崎師範学校同則……13丁
長崎師範学校書籍局規則（同８年１月）……６頁
長崎師範学校附属小学校規則（同８年８月）…21頁
上等小学教則（同10年10月）……17頁
下等小学教則……11丁

5）旧官立長崎師範学校蔵書中の現存書と，同校蔵書目録，同校関連諸規則・教則については，鈴木理恵『官立長崎師範学校蔵書に関する報告書』（平成20～22年度科学研究費補助金（基盤研究（Ａ）（一般））「「書物・出版と社会変容」研究の総合化に向けて」研究成果報告書），研究代表者若尾政希，2010年（以下『報告書』と略す）に掲載した。

6）『文部省年報』による。『文部省報告』では125名。

7）平田宗史「官立長崎師範学校」『福岡教育大学紀要』32-4，1982年，pp.109-120。

8）長崎県教育会編『長崎県教育史上下』長崎県教育会，1943年。

9）石井敦『日本近代公共図書館史の研究』日本図書館協会，1972年。角家文雄『日本近代図書館史』学陽書房，1977年。小野則秋「近代日本における図書館法規の変遷とその背景についての考察」『日本文庫史研究下』臨川書店，1979年。

10）『文部省第四年報』。

11）橋本美保も蔵書目録の性格について「官立長崎師範学校の廃校時にその設備・備品が長崎県の師範学校に移管される際の引き継ぎのために作成されたものと思われる」（註２書 p.26・p.264）としている。なお，「長崎師範学校書籍局規則」の第一条に「書籍ヲ拝借セントスル者ハ書籍懸ニ就キ書籍目録ヲ一覧シ左ノ書式ノ如ク證書ヲ認メ書籍局へ差出シ拝借書籍ト交換可致事」とあることから，明治８年当時に「書籍目録」が作成されていたことがうかがえるが，残存しない。

12）先述したように，目録中の「小学読本」を，師範学校編輯『小学読本』（全４冊），『小学読本』（全４冊），田中芳男閲・田中義廉編『小学読本』，『〈小／学〉読本』（全６冊）の４種類とみなしたようなやり方でカウントした。

13）『報告書』p.85。

14）『報告書』p.86。

15）教育関連書に関しては，橋本美保が書名を復元している（註２書 pp.142～143）。

16）後述するように，『文部省年報』に「小学校用書」「参考書」「洋書」と記載された書物のそれぞれの冊数も，目録から導き出される点数と一致しない。数字が一致しない理由は不明である。筆者のカウントの仕方と当時の目録作成担当者のカウントの仕方が違うためかもしれないし，目録が作成された時期と『文部省年報』上の数字が報告された時期にタイムラグがあってその間に冊数の増減があったのかもしれない。

17）『報告書』pp.75～76，pp.79～80。

18）『報告書』p.75，p.79。「明治九年六月改定長崎師範学校々則」では「自費ヲ以テ弁スヘシト雖モ…」（p.79）となっている。

【付　記】

本稿は，平成23年度科学研究費補助金（基盤研究（Ａ）（一般））「「書物・出版と社会変容」研究の深化と一般化のために」（研究代表者　若尾政希）の成果である。